



**全日本ナショナルチーム
ガイドライン
2016-2017**

目次

◆ 全日本ナショナルチームメンバーとしての心構え

◆ 平成28年度全日本ナショナルチーム・ユースナショナルチームメンバー行動規範

◆ 競技部より

- ◆ 諸注意
- ◆ アンチ・ドーピングについて
- ◆ 海外遠征
- ◆ 国際オープン大会
- ◆ 大会出場許可願い
- ◆ ナショナルメンバーの派遣依頼
- ◆ 所属長宛の派遣依頼書発行について
- ◆ 喫煙と飲酒

◆ 総務部より

- ◆ 代表派遣時の交通費等支給
- ◆ 賞金等の授受について
- ◆ 特別・準特別待遇選手制度

◆ 広報・企画部より

- ◆ 全日本ナショナルチームメンバーメディア活動に対するガイドライン
- ◆ 活動時の服装について…支給品ウェア使用時の注意事項
- ◆ 服装について
- ◆ 取材対応
- ◆ 個人スポンサー契約について

記載事項について詳しくは、各ページの
担当部署・担当者まで連絡してください。

公益財団法人 全日本ボウリング協会

【事務局】108-0014 東京都港区芝4-4-10
サンライズ長井ビル8F

TEL 03-3452-4501 FAX 03-3452-4504

【担当者】

- ◆ 競技部
小杉雅彦 kosugi-m@jbc-bowling.or.jp
羽島尚吾 hajima-d@jbc-bowling.or.jp
- ◆ 総務部
腰越正規 koshigoe-m@jbc-bowling.or.jp
- ◆ 広報・企画部
宮内久美子 miyauchi-k@jbc-bowling.or.jp

全日本ナショナルチームメンバーとしての心構え

日本を代表-競技においても心構えにおいても最高水準

- ◆ 常に国際大会の派遣に備えておく。(体調、パスポートの準備など)
- ◆ JBC主催大会には積極的に参加し、常に優勝争いに加わるよう心がける。
- ◆ 日々競技力を鍛錬-地域の指導者を探す(新コーチ制度発足)
- ◆ 合宿・海外遠征時等でのコーチの指導をメモ、ときどき読み返す。(基礎体力を含む-エクササイズマニュアル参照。ただし、中学生以下のユースは持久力を中心に)
- ◆ 国際オープン大会に積極的に参加-海外の雰囲気、他国語、レーン(オイリングを含む)の中で腕を磨く(JBCホームページで参加募集情報公開)

日々の行動について-普段の生活態度にも注意

- ◆ 常に「全日本ナショナルチームメンバー」にふさわしい言動をとること。
- ◆ スポーツの日本代表、つまり「全日本ナショナルチームメンバー」は、競技界の内外から注目され、時には厳しい目で見られることもある。常に注目される存在であることを自覚し、公式/プライベートに関わらず、適切な言動を心掛けること。
- ◆ 暴力行為、いじめ、セクハラをしない、見過ごさない。
-ボウリング競技界における暴力行為根絶を目指します <http://www.jbc-bowling.or.jp/i-konzetsu/>
- ◆ 全日本ナショナルチームの品格を高める努力をすること。
- ◆ ボウラー、特にジュニア選手から憧れられるような選手でいるよう意識すること。
- ◆ 練習中/試合中に関わらず、真摯にボウリングに向き合うこと。
- ◆ 試合においては、規模を問わず常に優勝を目指し、それに準ずる結果を追求すること。
- ◆ チームメンバー同士で切磋琢磨し、個々のスキルを高めつつ、チームとして協調した行動をとること。

平成28年度全日本ナショナルチーム ユースナショナルチームメンバー行動規範

- ◆ **高校生以下の染髪禁止(原則校則で禁止されていることは禁止)**
なお、成年については常識の範囲内での染髪を許可
(許容範囲など、不明点は両キャプテンもしくは身近の先輩・協会に相談すること)
- ◆ **挨拶は自分から**
協会の方や役員の方に挨拶するのは当たり前で、先輩や仲間にも自ら進んで挨拶に行く。
- ◆ **競技中に着用のユニフォームは必ずしまう。**
丈が短いものもあるが、出ていたらお互いが注意し合い気を付けるようにすること。
- ◆ **国内外問わず、男女間の部屋の行き来は禁止。**
会話等ある時は公共の場(ホテルのロビーやボウリング場など)を利用する。
- ◆ **行動・発言はJAPANとしての意識を持って行う**
常に見られているという意識を持って過ごすようにすること。
- ◆ **1人の責任は皆の責任。**
結果悪いのは一人でも、チーム全体が悪く見られてしまう。
そういったきっかけを作らないためにもナショナルチームとしての自覚と責任を全員が持つ。
- ◆ **「ばれなければいいや」はなし**
たった1人の軽率な言動のせいで、努力をしているチームメイト皆が迷惑をする。
ナショナルチーム全体の評価が下がる。
- ◆ **大会出場許可証はなるべく早く出す。**
出場希望の大会要項が発表されたら直ちに提出し、出場可否を協会より頂く。
- ◆ **日頃よりお世話になっている方への感謝を忘れない。**
両親・協会の方含め関わる全ての方に対して。

競技部より

【諸注意】

- ◆ 所属情報(会社、学校など)自宅住所、携帯電話番号、メールアドレス等が変わった時は、直ちにJBC事務局に届け出る。
- ◆ 各種ナショナルワッペンを販売する。希望者は事前に申し出ること。(1枚1,000円)
- ◆ JBC事務局より、パソコンから @jbc-bowling.or.jp のドメインにてメールを送信することがある。パソコンより送信されるメールを受信できるよう携帯電話やスマートフォンの設定変更をすること。(ドメイン指定受信設定でも可)

【アンチ・ドーピングについて】

- ◆ 医科学的免除措置(TUE申請)を受ける必要のある選手については、JBC事務局担当者に連絡の上、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構の規程に基づいた手続きを行うこと。(医師の処方薬を使用する際、不明な点があればJBC事務局担当者へ連絡すること)
- ◆ TUE申請に対する手続き、禁止薬物等の詳細は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のホームページ <http://playtruejapan.org/> にて確認すること。
- ◆ 市販薬(風邪薬や目薬、花粉症の薬、湿布、漢方薬)、特にサプリメントは、国内産でも禁止物質が含まれていることも報告されているため、安易に使用しないこと。(アンチドーピングの知識に長けた医師、薬剤師に処方された薬や、禁止物質を含んでいないことが確認できたサプリメントのみ使用すること)
- ◆ 常用薬は定期的に禁止物質の有無を確認すること。
- ◆ 禁止表国際基準にもとづいた検索サイト【Global DRO】 <http://www.globaldro.com/JP/search>
- ◆ 最寄りの公認スポーツファーマシスト検索サイト
<http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>
※スポーツファーマシストとは、薬剤師の資格を有し、所定の課程を修めた方が認定される資格制度であり、ケガや体調を崩した際に使用する薬や、日常で使用する薬に関する相談が可能。

競技部より

【海外遠征】

主な所持品について

- ◆ パスポート(残存期間6カ月前には更新)
- ◆ ユニフォーム
- ◆ ナショナル制定ジャージ
- ◆ ナショナル制定ユニフォーム
- ◆ スラックス
- ◆ 下着類・靴下
- ◆ パジャマ
- ◆ スリッパ
- ◆ 洗面用具
- ◆ 目覚まし時計
- ◆ 常に携帯する筆記用具
- ◆ 海外用コンセント変換プラグ

※手配された航空会社によるが、1人につき23キロ×3個(ボールのみ収納可能なトリプルボールバッグ2個とスーツケース)の荷物を預け入れ可能。シューズや小物入れはスーツケースへ入れること。

注意すること

- ◆ (パスポートと)現金の所持は最低限にすること
- ◆ 海外滞在中は、生水・氷入りの飲料は飲まない(歯磨きもミネラル)、生ものは食べない(国を問わず)
- ◆ スーツケースの荷物は少な目にする
- ◆ 集合時間は早めに集まること
- ◆ 単独行動は絶対にしないこと
- ◆ タクシーの運転手には気をつける
- ◆ パン食に慣れておくこと(普段より偏食を改善)
- ◆ ホテル内ではパジャマ姿で部屋から外に出ないこと、スリッパでロビーに下りないこと
- ◆ 体調管理-病気・怪我は、事務局担当者・トレーナーに報告。(通常時含む)
- ◆ 食事も普段から栄養に注意。
- ◆ 特に女子は、遠征日程に合わせた体調管理(医師に相談)
- ◆ 国際友好-英会話力(日常会話でOK)、コミュニケーション力を涵養

競技部より

【国際オープン大会】

- ◆ 参加方法-JBCホームページ、ABFホームページ等でスケジュール確認(アジアの大会は、海外優先枠が始まる日を目安に渡航)
- ◆ 所属連盟を通して国際大会参加申請書を提出(JAL超過手荷物免除:JALの国際線を使用して国際大会に参加する場合通常23Kg、2個までの無料預入手荷物を23Kg、3個に増やせる-ボール6個から9個持って行ける-ので、希望する場合は事務局担当者まで)
- ◆ 賞金を獲得した場合の処理方法はP.8(総務部より-賞金等の授受について)を参照のこと

【大会出場許可願い】

- ◆ 全日本ナショナルチームメンバーは協会主催大会・連盟主催大会等、JBCが行う大会以外の事業に出場する前に、所属連盟を通じて「大会出場許可願い」を提出し許可を得てから申込をすること。その際、必ず要項(協賛企業・表彰内容・アマチュア入賞規定が記載されていることを確認)を添えること。
なお、公認競技場でない(全国ボウリング公認競技場協議会 非加盟センター)会場にて開催される大会は原則参加不可。

【ナショナルメンバーの派遣依頼】

- ◆ 【〇〇選手と投げよう】や【〇〇選手チャレンジマッチ】などの企画を打診された場合は、その場で参加可否を回答せず、必ずJBCへ問い合わせしてから返事をする旨を伝えること。
- ◆ 留意する点として
 - ① 基本的に各連盟事業(会員増強策など)の一環でないと認められない
 - ② 企画に一般企業が協賛、後援等として関わっている場合は、企業名を報告すること
 - ③ 自身の所属(勤務先)によるチャレンジマッチなどは業務の一環のため申請不要

競技部より

【所属長宛の派遣依頼書発行について】

- ◆ 国際大会やナショナルチームメンバーの代表として出場するJBC主催大会(NHK杯など)、合宿へ参加するにあたり、JBCから所属宛に派遣依頼書が必要な選手は、JBC事務局担当者へ下記項目を入力の上、メールにて連絡すること。
 - ◆ 送付先情報(名称・住所・郵便番号)
 - ◆ 所属情報(名称・所属長役職・所属長氏名)

【喫煙と飲酒】

喫煙は持久力を阻害します。また、長い目で見れば体をむしばみます。また、周囲の人の迷惑にもなります。

ボウリングは昔から、飲酒をしながら投球することがありますが、例えばユニフォームを着たボウラーが飲酒をしながらボウリングをしている姿をIOC委員が見たとしたら、ボウリングをオリンピック種目にふさわしい競技だと思ってしまうか。

世界ボウリング連盟はオリンピック正式種目参入を目指し、ボウリング競技のインテグリティ(高潔さ・品格の高さ)を旗印に大会中競技の周辺の行動にも厳しく臨んでいます。

- ◆ 皆さんはアスリートなのでから喫煙はやめましょう。また喫煙者はできれば禁煙しましょう。
- ◆ JBCの主催大会中は言うまでもなく、他団体の大会、合宿中を含め、およそユニフォームを着用してボウリングをしている時は、ボウリング場内では喫煙は禁止とする。もちろん、ゲーム中、ゲームとゲームの間に外で喫煙などもってのほか。
- ◆ JBCの主催大会、国際大会、他団体の大会、合宿中を含め、およそユニフォームを着用して臨む大会・催しの期間中全体を通して飲酒は禁止とする。
- ◆ 皆さんはJBCの顔です。上記以外の時も常に人から見られていることを心にとめて、決して酒に酔って、あるいは二日酔いの状態でボウリングをすることのないようにしてください。

競技部より

世界ボウリング連盟 憲章及び競技規程集(抜粋)

第3章 世界ボウリング連盟公認国際大会

3.5条 公認の要件

3.5.3 喫煙及び飲酒

- a) 競技者はたばこ製品を使用してはならない
 - b) 競技者はアルコールを摂取、あるいはアルコールの影響下にあつてはならない。
- a) 及びb) に関しては、ゲームのブロック中全体において適用。

第4章 世界選手権大会、主要規程

4.16条 飲酒

4.16.1 競技者は競技中飲酒をしたり、アルコールの影響下にあつたりしてはならない。競技中とはゲームのブロック全体の時間を指すものとする。この規定に違反した場合の罰則は当該競技会からの追放とする。

4.16.2 競技者、コーチ、監督は、公式練習の開始時点からマスターズ競技の終了までの時間内を通してボウリングセンター内で、自らの国内競技連盟の標準ユニフォームを着用中に飲酒をしてはならない。この規定に違反した場合の罰則は以下のとおりとする：

- 1回目は警告
- 2回目は罰金100USドル(次の種目の前に所属連盟より支払う)とし、以降の引き続いての違反に対しては当該選手権大会期間中、資格停止とする。

4.17条 喫煙及びタバコ製品の使用

4.17.1 選手権大会中、ボウリングセンターでは喫煙は許されない。ただし、競技者エリアや観客エリアに影響を及ぼさない場合に限り、煙の漏れないエリアでは許される。

4.17.2 競技者とそのコーチあるいはコーチたちは競技中、喫煙もタバコ製品の使用もいかなる種類の合成タバコや電子タバコの使用もしてはならない。競技中とはゲームのブロック全体の時間内を指すものとする。

4.17.3 ゲーム中の競技者の喫煙に対する罰則はそのとき競技中のゲームの得点ゼロとする。ゲームとゲームの間の喫煙に対する罰則はその次のゲームの得点ゼロとする。同じ競技者による2回目の違反に対する罰則はトーナメントテクニカル委員会による当該選手権大会の残りの期間からの追放とする。

4.17.4 ゲーム中のコーチの喫煙に対する罰則は規定違反のあったゲームのブロックの資格停止とする。2回目の違反に対する罰則は当該選手権大会の残りの期間の資格停止とする。

4.17.5 競技者、コーチ、監督は、公式練習の開始時点からマスターズ競技の終了までの時間内を通してボウリングセンター内で、自らの国内競技連盟の標準ユニフォームを着用中に喫煙もタバコ製品の使用もいかなる種類の合成タバコや電子タバコの使用もしてはならない。この規定に違反した場合の罰則は以下のとおりとする：

- 1回目は警告
- 2回目は罰金100USドル(次の種目の前に所属連盟より支払う)とし、以降の引き続いての違反に対しては当該選手権大会期間中、資格停止とする。

総務部より

【代表派遣時の交通費等支給】

- ◆ 基本的には銀行振込するので自身(または保護者)の金融機関情報を提出すること。
領収書に署名が必要な場合はボールペン(鉛筆は不可)で記入すること。

【賞金等の授受について】

- ◆ 出場した大会等において直接賞金等を受け取った場合、直ちに報告のうえ1週間以内に日本円にて協会へ全額納めること。国際オープン大会等で獲得した外貨の場合は、現地で日本円に交換し、両替領収証を送付すること。
- ◆ 賞金等は協会規程に基づいて加盟団体を通じて送金するので、所属連盟より受領したら速やかに受領書に署名し返送すること。

公益財団法人全日本ボウリング協会 特別・準特別待遇選手制度

主要な国際大会において、優勝またはこれに準ずる成績により、わが国および協会に名誉をもたらした選手を待遇選手として認定する。認定期間は1年間とする。

1. 特別待遇選手の認定基準
オリンピックゲーム及びアジア競技大会、世界選手権大会において第3位までに入賞した選手。
2. 準特別待遇選手の認定基準
アジア選手権大会・世界シニア選手権大会・世界ユース選手権大会において第3位までに入賞した選手。
東アジア競技大会・アジアユース選手権大会・アジアインドアアンドマーシャルアーツゲームズにおいて優勝した選手。
3. 特別待遇選手および準特別待遇選手には次の特典を与える。
 - ① 特別待遇選手には対しては、認定証を授与し、認定期間中、協会の主催大会(参加資格のある大会)へ参加した場合、当該大会の参加費および所属加盟団体所在地から開催会場地までの交通費(往復の実費)を協会が負担する。
 - ② 準特別待遇選手に対しては、認定証を授与し、認定期間中、協会の主催大会(参加資格のある大会)へ参加した場合、当該大会の参加費を協会が負担する。

(平成26年4月1日現在)

【特別・準特別待遇選手制度】

- ◆ 認定された選手は施設使用料を協会が負担するため、出場した主催大会を報告すること。
- ◆ 特別待遇選手認定者には交通費を支給するため、航空機利用の時は領収書を送付すること。
- ◆ 加盟団体を通じて上記選手負担金を送付するので受領した際には速やかに受領書に署名し返送すること。

公益財団法人全日本ボウリング協会 報償金・特別待遇選手・準特別待遇選手制度一覧

大会名	報償金(各種目に与える)	待遇
JOC派遣大会		
1. オリンピックゲームズ	金 500,000円	特別待遇選手
	銀 300,000円	特別待遇選手
	銅 200,000円	特別待遇選手
2. アジア競技大会ボウリング競技	金 300,000円	特別待遇選手
	銀 200,000円	特別待遇選手
	銅 100,000円	特別待遇選手
3. 東アジア競技大会ボウリング競技	金 50,000円	準特別待遇選手
	銀 30,000円	
	銅 20,000円	
ワールドボウリング主催		
1. 世界テンピンボウリング選手権大会	金 300,000円	特別待遇選手
	銀 200,000円	特別待遇選手
	銅 100,000円	特別待遇選手
2. 世界テンピンボウリング選手権大会ユース大会(男女各4名)	金 150,000円	準特別待遇選手
	銀 100,000円	準特別待遇選手
	銅 50,000円	準特別待遇選手
3. 世界テンピンボウリング選手権大会シニア大会(男女各4名)	金 150,000円	準特別待遇選手
	銀 100,000円	準特別待遇選手
	銅 50,000円	準特別待遇選手
アジアテンピンボウリング主催		
1. アジアスクールボウリング選手権大会(男女各4名)	金 50,000円	
	銀 30,000円	
	銅 20,000円	
2. アジアボウリング選手権大会(男女各6名)	金 200,000円	準特別待遇選手
	銀 100,000円	準特別待遇選手
	銅 50,000円	準特別待遇選手
3. アジアユースボウリング選手権大会(男女各4名)	金 100,000円	準特別待遇選手
	銀 50,000円	
	銅 30,000円	

その他

IOC承認大会		
1. アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ	金 50,000円	準特別待遇選手
	銀 30,000円	
	銅 20,000円	

広報・企画部より

全日本ナショナルチームメンバー メディア活動に対するガイドライン

インターネットや通信機器の急激な普及により、個人による情報発信は簡単にできる時代となりました。国内外で多種多様なソーシャルメディア*が創設され、そのユーザーも劇的に増加しています。

全日本ナショナルチームメンバーも、各個人が複数のソーシャルメディアアカウントを持ち、情報交換に利用しています。ソーシャルメディアは、非常に便利な機能を持つ一方で、世間の報道や各個人の経験からも、利用の難しさを感じる場面があるのではないのでしょうか。

全日本ナショナルチームは、ボウリングの日本代表となる選手の集まりです。日本のトップアスリートとして、その言動が競技の内外を問わず注目される存在です。チームを運営する公益財団法人全日本ボウリング協会(JBC)は、国際オリンピック委員会(IOC)の方針にならい、メンバーおよびスタッフのみなさんがソーシャルメディアを活用し、自身の経験や情報を発信することを奨励します。一方、ソーシャルメディア上での情報発信はときに思わぬ波紋を呼び、選手またはスタッフ個人、ひいてはJBCおよびボウリング競技の評判を左右する事態に発展する可能性もあります。

そこで、全日本ナショナルチームメンバーおよびスタッフを対象とし、ソーシャルメディアの個人利用における積極的な情報発信の推進を図るとともに、適切なリスクマネジメントを講じることを目的とし、ソーシャルメディアの特性を踏まえたメディア活動について基本原則を示します。

*ソーシャルメディアとは、個人のウェブサイト、ブログ、twitter、facebook、YouTube、Instagram等、ネット上で自ら情報発信していくサイト全てを指します

【基本原則】

- ① ボウリング界の発展につながる情報は積極的に共有する
- ② 全日本ナショナルチームメンバーとしての自覚を持ち、誠実で品位ある発言をする
- ③ 他者の批判は慎む
- ④ チームやチームメンバーに不利となる機密情報の漏洩を回避する
- ⑤ やらせ行為及び誤解を招く発言は回避する
- ⑥ 全日本ナショナルチーム支援企業の商業活動を阻害するような発言は慎む
- ⑦ 著作権や肖像権など第三者の権利を尊重する
- ⑧ 「見られている」意識をもち、投稿・発言内容を慎重に確認する
- ⑨ 一度公開した情報は完全に削除できないと認識する
- ⑩ ボウリング競技に関する意見を述べる際は、必ず「自分の私見」であることを明示する

ボウリングを通じて得た経験や情報を広く社会に共有し、ボウリングファンを含む一般の方々とのコミュニケーションの中で絆を深め、全日本ナショナルチームとボウリング選手の価値を向上させて、ボウリングというスポーツと一緒に盛り上げていきましょう！

広報・企画部より

【活動時の服装について…支給品ウェア使用時の注意事項】

- ◆ 支給されているウェアは、ナショナルチームメンバーの正装です。
(スーツ、ウォームアップウェア、ユニフォーム、Tシャツすべて)
- ◆ 正装を身に着けるということは、行き先(イベント)に対する敬意を表するということです。
- ◆ 正装を着用する際は、身なりにふさわしい言動を心掛けてください。

<着用義務>

- ◆ JBC主催大会参加時
自宅⇄会場の往復はスーツ、ユースはウォームアップウェア
開会式から閉会式まではウォームアップウェア、競技時、ユニフォームは服装規則に応じて着用可
(ただし、国体などチームで決められた服装がある場合は使用しないこと)
- ◆ 公式国際大会参加時…日本代表として派遣されるときのこと
自宅⇄会場の往復はスーツ、ユースはウォームアップウェア
開会式から閉会式まではウォームアップウェア、競技時はナショナルユニフォーム
レセプション、ピクトリーバンケットはスーツ、ユースはウォームアップウェア
- ◆ 「大会出場許可願い」を提出・受理された大会への参加時(国内外問わず)
およびJBC推薦選手として出場する、JBC以外が主催する大会への参加時
自宅⇄会場の往復はスーツ、開会式から閉会式まではウォームアップウェア
競技時、ユニフォームは大会規程の服装規則に応じて着用可
レセプション、ピクトリーバンケットはスーツ、ユースはウォームアップウェア
- ◆ 選手として表彰・各種パーティー等に参加時
スーツ(ユースは学校制服、ユース大学生はリクルートスーツ)

広報・企画部より

<着用義務>

- ◆ ボウリング選手として取材を受ける際
ウォームアップウェア、投球時はユニフォーム
- ◆ JBCに届出・許可済のチャレンジマッチ的イベント
自宅⇄会場の往復はスーツ、ユースはウォームアップウェア
開会式から閉会式まではウォームアップウェア、競技時はナショナルユニフォーム
※イベントの協賛企業に、ナショナルチーム支援企業の競合がある場合には、ウォームアップウェアを着用できない場合がある。

<着用可能> 状況に即して着用するものを選んでよい

- ◆ JBC公認大会参加時(地区連合以下の大会、リーグ等)
スーツは必須ではない、競技時のユニフォームは大会の服装規則に依ること
- ◆ 個人的な練習、トレーニング時
フィジカルトレーニングはウォームアップウェア、Tシャツ使用可、投球時はユニフォーム使用不可(摩耗防止)

<着用不可>

- ◆ 「大会出場許可願い」を提出・受理していない、JBC公認でない大会
そもそも、出場許可願い出していない時点で、メンバーとしてアウト
- ◆ JBCに届出、許可を受けていないチャレンジマッチ的イベント
そもそも、届け出していない時点で、メンバーとしてアウト

広報・企画部より

▼オフィシャルスーツについて

- ◆ Yシャツは白無地
- ◆ 専用ネクタイ、スカーフを使用
ネクタイは固く結ぶ、上まできっちり上げる、ゆるめない
スカーフは首に一巻きして左側で結ぶ、シャツのボタンは一番上だけ外す
- ◆ 靴は黒・茶系のビジネスシューズ、パンプス
- ◆ ジャケット左襟にJAPANのピンバッジをつける(角度変わりやすいので注意)

▼その他の注意事項

- ◆ チームウェアにナショナルチームの支援企業以外のワッペンをつけるよう指示された場合は事務局に必ず確認をとること
- ◆ 支給品および企業ロゴは常にきれいな状態を保つこと
- ◆ 随時洗濯・補修し、丁寧に扱うこと
- ◆ 特にユニフォームは、摩耗(毛玉、けば立ち)や油汚れによる変色に注意すること
- ◆ チーム活動中は、メンバー全員が同じ着衣・物品をそろえることが前提となる。指示された支給品は必ず持参し、すぐ使用できるよう準備を整えること。

広報・企画部より

【取材対応】

- ◆ 取材希望の連絡があった場合は、JBCと所属連盟の許可を得ているかを必ず確認すること。許可を得ていない場合は、JBC事務局(担当・宮内)に連絡するよう伝えること。
- ◆ 取材日時・場所が確定したら、JBC事務局に報告すること。
- ◆ 「メディア活動に対するガイドライン」に示された内容を踏まえて取材を受けること。
- ◆ 映像・写真撮影を伴う場合は、服装についてJBC事務局より指示を受けること。支援企業のロゴマーク等ができるだけ映り込むように、カメラマンに依頼すること。
- ◆ 取材を受けた新聞記事、テレビ番組等の内容は、できるだけJBC事務局に送付すること。
※以後の企業支援拡大につながります。ご協力ください。

【個人スポンサー契約について】

- ◆ ボウリング用品メーカー、その他スポンサーと個人的に契約している場合は、契約内容と期限をJBC事務局に報告すること。
- ◆ 新規契約および契約更新の打診があった場合には、即答せずJBC事務局に報告すること。



氏名